

# 60歳70歳代の生き方が地域の元気を左右する

心身が弱って介護保険の要介護認定者が多くなるのは80歳代に入ってからです。60歳定年後の60歳代や70歳代は、大病を患うことが多くなり体力も衰えてきますが要介護認定になる方は少なく、高齢者とはいえまだまだ元気に過ごしている方が多い年代です。諏訪市のこの層の人口は12,765人で24.5%を占め、諏訪市民の4人に1人という多さです。

高齢者には仕事を離れて生きる張りを失ったり、引きこもりがちの方も多く、とかく福祉の対象としての受け身の存在ととらえがちです。しかし、文化活動や健康スポーツへの参加、営農や就労、環境の保護や整備活動、児童の安全や子育て支援、高齢者や障害者への福祉活動等々、生き生きと暮らしている方が沢山います。この年代の方々にはこうした課題に取りくむ力と時間がありますから、男女を問わずその生き方や暮らし方は、その存在の大きさからみて今後の諏訪の市民活動の元気と活性化を左右するといえます。

